学童保育に新しい風

新年度からの学校完全週休2日制でますます役割が重要となっている学童保育。大阪狭山市で3月、NPO運営の学童保育所「ワークレッシュ」がオープンした。学童保育所は公営か父母の会によるものがほとんどで、NPO主導の保育所は全国的にみても大変珍しい。代表の和久貴子さん(29)に開設の狙いなどを聞いた。

【皆木成実】

子育てリポート

大阪狭山市・「ワークレッシュ」

NPOが設立、運営

入所資格不問、20時まで保育

大阪府の南部、古事記に登場する狭山池を中心に古い歴史がありながらも、ベッドタウンとして開発が進む大阪狭山市。ワークレッシュはその民家を借りてオープンした。元々、塾講師や学童保育員の経験がある和久さんを中心に、子どものための料理教室などの学習会をしていた。保育所開設のためにNPO法人の認証を受けた。

ワークレッシュの特色は、同市主催の保育所と違い学年・学区や入所資格不問▽午後8時までの夜間保育▽グループ主催の学習会などとリンク――など。利用は会員制で利用料1時間500円のほか、年会費1万円が必要。現在約20人の児童を担当している。

和久さんらの狙いは、新旧住民が混在する同市内で、さまざまな親のニーズに応え、子どもたちの過ごしやすい空間をつくること。会計などの透明性を確保した開かれた保育を、新しい地域の助け合いの中で運営する目的からNPO形式にした。

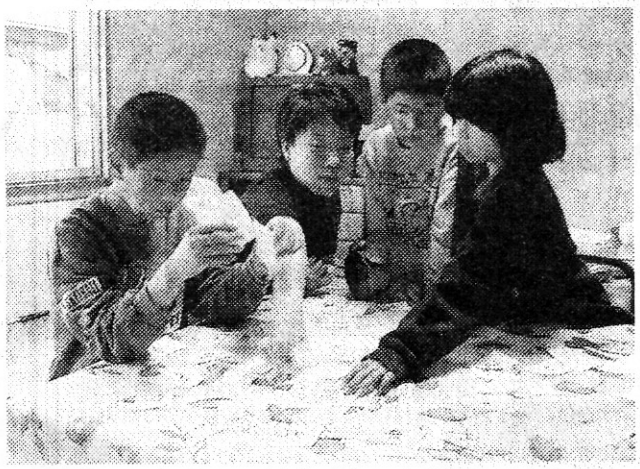
課題は資金の調達方法

支えるのは有償ボランティア

運営面で最も問題になるのは活動のための資金をどうねん出するのかということ。全国学童保育連絡協議会によると、現在の全国の学童保育所のうち、6割は自治体、3割は多くが助成を受けた父母の会、1割が私立保育園の運営。利用料と寄付が頼りのワークレッシュの場合は、中心メンバー6～7人が、時給500円の有償ボランティアという形で保育にあたっている。

和久さんは「メンバーの熱意と、場所を安価で貸してもらっているので運営できていますが、事業として成り立つように育て上げていきたい。今までにない自由な形での学童保育のスタイルとしてモデルケースになれば」と話している。

問い合わせはワークレッシュ事務局（072・368・7789、大阪狭山市池尻中1）。



学童保育所「ワークレッシュ」で、和久さん（中央）とゲームで遊ぶ子どもたち

全国学童保育連絡協議会の調査（昨年5月）によると、全国の施設数は1万1830カ所。98年に法制化したが、小学校数に対する設置数は49・1％に過ぎず、学童保育が1カ所もない市町村が4割近くある。急増するニーズに対応しきれず、保育所があっても定員いっぱいで、入所待機児童の問題が年々深刻化。運営形態がさまざまで、予算や場所確保の問題を抱えている例も多い。

深刻化する待機児童問題

運営のモデルケース

教育評論家、尾木直樹さんの話　福祉と教育の両側面がある学童保育は本来、自治体が責任を持つもの。しかし、運営に関しては地域の事情に合わせて多様な形態を認め、自治体がバックアップするべきだ。NPOによる運営は可能性を秘めており、モデルケースとして注目できる。